

(実践報告)

外国人看護師・社会福祉士候補者が高齢者理解を深めるための “The Elderly Simulation Program”の作成

名和祥子¹⁾ 岡村絹代¹⁾ 樹神千尋¹⁾ 松山 旭²⁾

I. はじめに

世界の高齢化率は、日本を含めた世界主要国のうち11カ国において、2030年には21%を超えることが予想されており(労働政策研究・研修機構, 2019), 世界的に超高齢社会を迎えようとしている。日本は、2010年には超高齢社会を迎えており(労働政策研究・研修機構, 2019), それ以前より高齢者に対して様々な取り組みを行ってきた高齢化先進国といえる。そして、市場経済のグローバル化に伴って、看護師などの保健医療領域に携わる労働者においても国境の移動の規模や距離が拡大している(佐藤, 2013)。

我が国では、2008年から経済連携協定(EPA)に基づき外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れが開始され、2019年に累計が6400人超となっている(厚生労働省, 2019)。日本の外国人看護師候補者は、インドネシア、フィリピン、ベトナムから受け入れているが(厚生労働省, 2019), これらの国の高齢化率はまだ5%程度であり(内閣府, 2020), 平均寿命においても我が国と10歳以上差があると報告されている(労働政策研究・研修機構, 2019)。そのため、外国人看護師・介護福祉士候補者の多くは、母国の生活では超高齢社会である日本の高齢者の加齢に伴う変化を実感できる環境下にはない現状がある。しかしながら、外国人看護師・介護福祉士候補者が超高齢社会である日本で仕事をしていく際に、高齢者との関わりの中で困難を生じることが多くなることは容易に想像できる。そのため、日本で行われている老年看護学の教育内容や教育方法を教授することは、外国人看護師・介護福祉士候補者への指導においても重要なことになってくる。

そこで、老年看護学において高齢者理解に日本で多く用いられている教育方法である高齢者疑似体験に着目した。しかし、外国人看護師候補者は、日本語でのコミュニケーションについて課題を感じていることがあり(Efendi et al., 2016), 高齢者疑似体験を行う場合、日本語で作成された講義等のプログラムでは内容が分かりにくいことが考えられる。

さらに、久我原(2018)によると、外国人看護師候補者の学習環境の課題のひとつに、漢字、ひらがな、カタカナが混在している日本語習得の難しさと、母語と日本語をつなげる教材(英語教材)が発展途上であることを報告している。外国人看護師候補者は、母国において、英語が第二言語か、英語教育に力を入れていることから(Zein, 2017; 河原, 2016), 英語での理解は可能と考える。また、世界共通語である英語でのパンフレットであれば、外国人看護師候補者以外の国の希望者に対しても高齢者疑似体験が実施できる可能性もある。したがって、英語教材を使用することで、外国人看護師候補者への高齢者疑似体験の効果も大きくなることが考えられる。海外の文献では、高齢者疑似体験を使用した教育がほとんど見られなかったため、今回の試みにより、他国への高齢者疑似体験を使用した老年看護学教育の発信に繋がることも期待できると考えられる。

本稿では、外国人看護師・介護福祉士候補者に対して、高齢者理解を深めるための教材のひとつとして、“The Elderly Simulation Program”の作成を試みたので、その作成過程を報告する。

1) 朝日大学保健医療学部看護学科

2) 元朝日大学保健医療学部看護学科

II. “The Elderly Simulation Program” の作成過程

“The Elderly Simulation Program” の作成は、以下の手順にて行った。

1. 高齢者疑似体験の専用装具である“高齢者疑似体験セット エルダー・トライ”の製作および販売業者である株式会社ヤガミに“The Elderly Simulation Program”の作成と装具の使用についての承諾を得た。
2. 本学の老年看護学演習で使用している高齢者疑似体験の日本語シナリオを基に、日常生活の中で、老いることによる不自由さがより実感できるような場面をピックアップし、高齢者疑似体験の日本語シナリオを英語に翻訳した。
3. 高齢者疑似体験演習が修了している学生に協力してもらい、高齢者疑似体験の作成した英語シナリオに沿って、“The Elderly Simulation Program”用の写真撮影を行った。
4. 教員間で撮影した写真を確認し、掲載用の写真の選定を行った。
5. “The Elderly Simulation Program”の英語表現に対して、ネイティブチェックを受け、日本語と同じような高齢者理解が深まるように繰り返し修正を行った。
6. “高齢者疑似体験セット エルダー・トライ”の英語表記においても、日本語と相違が無いように、製作および販売業者である株式会社ヤガミに確認・助言を頂き、“The Elderly Simulation Program”を完成させた。

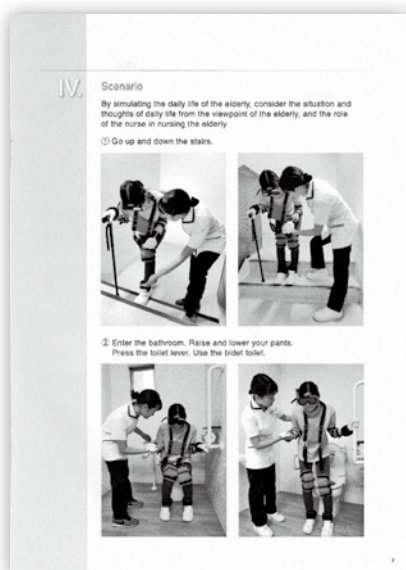
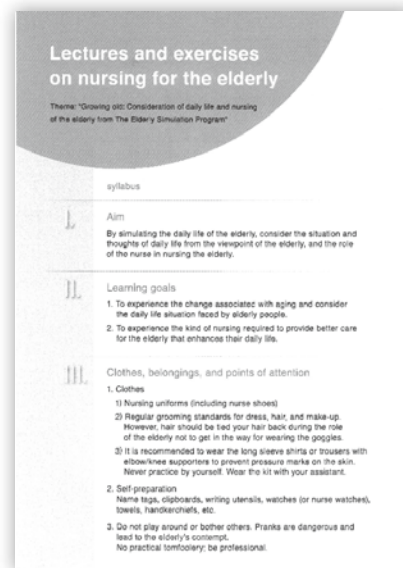
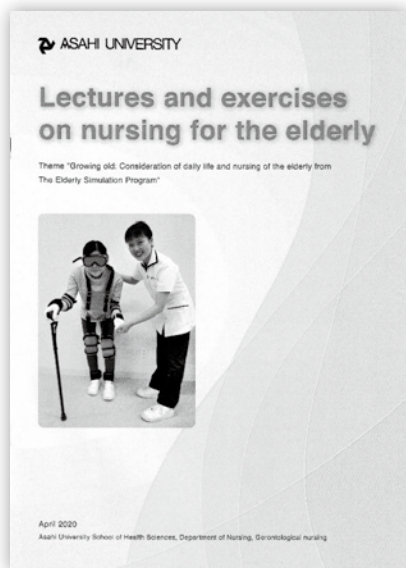


写真1：“The Elderly Simulation Program”パンフレット 表紙-p3

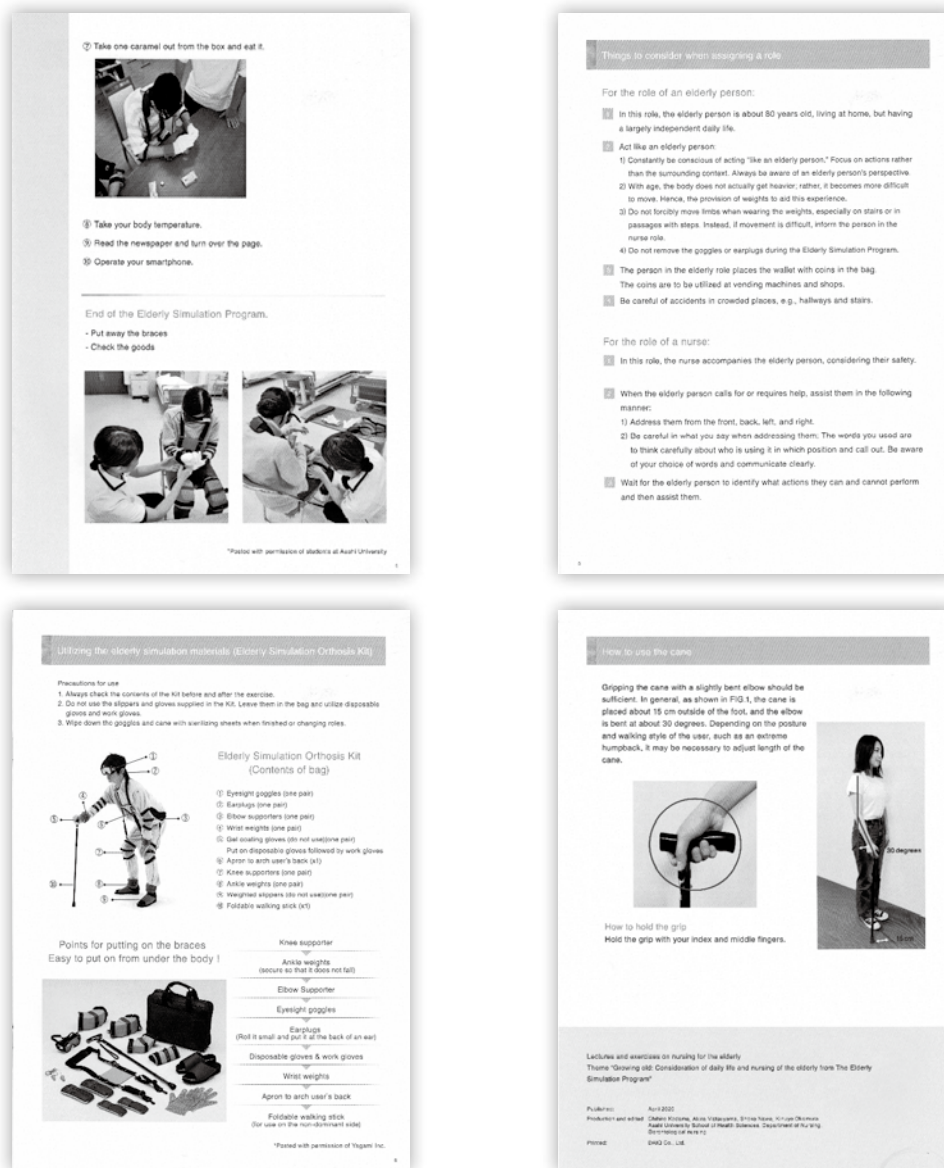


写真2：“The Elderly Simulation Program”パンフレット p4-7

Ⅲ. “The Elderly Simulation Program”を使用した評価および効果の検証に向けて

今回、外国人看護師・介護福祉士候補者に対して、高齢者理解を深める目的で、“The Elderly Simulation Program”を作成し、介護施設などで介入研究を試みようとしていた。しかし、新型コロナウイルスの影響により、研究計画は中断のままである。したがって、実際に“The Elderly Simulation Program”を使用していないため、その効果についてはまだ言及できない。そのため次のステップとして、“The Elderly Simulation Program”を使用した評価および効果の検証に向けて取り組んでいくことを考えている。

まずは、本学の留学生別科等の学生の協力の基、学内の身近なところでプレテストを行い、“The Elderly Simulation Program”の大まかな評価と効果の傾向を把握し、分析を行うことを予定している。その後、内諾の得られている介護老人保健施設の管理者に依頼し、“The Elderly Simulation Program”を使用した効果を判定していく予定である。

Ⅳ. まとめ

外国人看護師候補者の母国の一部では、看護師の身の回りの世話に対する看護の概念の違いがあり、看護師は家族が行う身の回りの世の確認や指示をする役割を持ち、食事や清潔などの直接的なケアは家族の役割

となっている(田中ら, 2009)。加えて, 高齢化率が5%程度であることから, 母国の生活では超高齢社会である日本の高齢者の加齢に伴う変化を実感できる環境下でない現状があるため, 高齢者看護については, ほとんど学ぶ機会がなかったと考えられる。

高齢者疑似体験は, 専用の装具を装着し, シナリオに沿って行動することで, 高齢者の身体的, 心理的側面の理解, 自己認識の変化, 共感的理解が得られることや(Ono et al., 2017), 高齢者が必要とする援助についても考察することができること(西原ら, 2017)が報告されている。そのため, 外国人看護師候補者は, 高齢者疑似体験を行うことで, 高齢者を取り巻く生活環境目を向ける大切さや, その人にあった生活援助を行う重要性など, 高齢者看護を学ぶきっかけのひとつになると考えられる。

現在, 日本の外国人看護師・社会福祉士候補者は, 日本滞在中に受け入れ先である施設で就労・研修を行っているが, 外国人看護師受け入れ先進国であるイギリスでは, 大学等の教育機関での教育プログラムを義務づけており, 受け入れ施設に教育を依存していない(成瀬ら, 2013)。今後, 看護師を養成する教育機関として, 外国人看護師・社会福祉士候補者を支援していける方法を模索していきたい。

なお, “The Elderly Simulation Program”に使用した写真は学生の許可を得て撮影した。また, 本実践報告において, 開示すべき利益相反は存在しない。

謝 辞

“The Elderly Simulation Program”の作成にあたり, 協力をして頂きました株式会社ヤガミ様, 学生の皆様に心より感謝致します。

文 献

- Efendi F, Chen CM, Nursalam N, Indarwati R, Ulfiana E. (2016). Lived experience of Indonesian nurses in Japan: A phenomenological study. *Japan journal of nursing science*, 13 (2), 284-93.
- 河原俊昭 (2016). 東南アジアの英語: フィリピンとマレーシアの事例から. 国際理解 (42), 125-128.
- 厚生労働省 (2019). 経済連携協定 (EPA) に基づく外国人看護師・介護福祉士候補者の受入れ概要. <https://www.mhlw.go.jp/content/000595174.pdf>, 2020-12-28.
- 久我原明子 (2018). 経済連携協定 (EPA) 外国人看護師候補者の看護師国家試験の学習環境の現状と課題, 山陽論叢, 25, 9-24.
- 内閣府 (2020). 令和2年度版高齢社会白書, <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/index.html>, 2021-01-10.
- 成瀬和子, 石川陽子 (2013). 英国における外国人看護師の受け入れ制度と教育, 国際保健医療, 28, 13-20.
- 西原かおり, 小野晴子, 伴 美由紀 (2017). 高齢者疑似体験前後におけるイメージの変化と気づき 老年看護学演習を通して. 兵庫大学論集, 22, 187-194.
- Ono Y, Iwayama K, Tanaka E, Ashida T, Komasa Y. (2017). Learning effects of aging simulationbased training Analysis using text mining. *Journal of Osaka Dental University*, 51 (2), 131-135.
- 労働政策研究・研修機構 (2019). データブック国際労働比較 2019, <https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/databook/2019/documents/Databook2019.pdf>, 2020-12-28.
- 佐藤仁志 (2013). 国際的な労働移動と貿易, 独立行政法人経済産業研究所, <https://www.rieti.go.jp/jp/publications/pdp/13p011.pdf>, 2021-01-10.
- 田中博子, 志賀由美, 西垣 克 (2009). 日本とフィリピンにおける病院看護業務の比較—タイムスタディー法を用いた主要業務の検討—, 日本看護管理学会誌, 12 (2), 94-105.
- Zein, S. (2017). Elementary English education in Indonesia: Policy developments, current practices, and future prospects, *English Today*, 33 (1), 53-59.